

## 第二卷

今日この日を、私は、心からの愛をもって迎<sup>むか</sup>える。

なぜならば、これは、いかなる仕事においても、成功するための最大の秘訣<sup>ひけつ</sup>だからである。腕力<sup>たて</sup>は楯<sup>たて</sup>を打ち砕<sup>くだ</sup>き、人を殺すこともできるが、人の心を開くことはできない。これができるとは、眼に見えない愛の力だけである。この愛の心をもって、顧客<sup>こきやく</sup>に接しえぬかぎり、私はただの行商人の域<sup>いき</sup>をでることはできない。私は愛をもって、私の最大の武器としよう。私に呼びかけられた客は、私の愛の力の前では、結局は、商品を買わないではいられなくなるにちがいない。

あるいは客は、私の説明に納得しないかもしれない。私の話をのっけから信じないかもしれない。私の着ているものを感じの悪い服装だと言うかもしれない。私の顔つきが気に入らないかもしれない。私と<sup>と</sup>の売買契約が、疑わしいと思うかもしれない。

しかしながら、どんなにかたく凍<sup>こお</sup>りついた地面も、やがては太陽の熱には溶<sup>と</sup>かされてしま



うように、私の愛は、人の心を暖め、開いてしまおうであろう。

今日この日を、私は、心からの愛をもつて迎える。

では、どのようなにして、それを成しえるのか？

これより以後、私は、すべてのものを愛の心をもつて見ることにしよう。そして、私は生まれ変わるのだ。

私は太陽を愛する。それは、私の骨の髄まで暖めてくれるがゆえに……。また、私は雨を愛する。それは、私の心を洗い清めてくれるがゆえに……。私は光を愛する。それは、私の行く手を照らしだしてくるがゆえに……。また、私は、暗闇さえ愛する。それは、私に星の輝きを見せてくれるがゆえに……。

私は喜びを歓迎する。なぜなら、それは私の心を広げてくれるからだ……。しかし、また、悲しみにも耐えよう。なぜなら、それは私の魂を開いてくれるからだ。

報酬は当然、私に支払われるべきものだから、私は喜んで、それを受けとろう。しかし、障害も、それは私とその仕事に挑んだゆえに、生じたことだから、同じく喜んで迎え入れよ



う。

今日この日を、私は、心からの愛をもって迎える。

しかし、どのような言葉をもつて話しかければよいのか？

私は私の敵をたたえよう。これによって、彼らは私の友となろう。私は友を力づけよう。そうすれば、友は私の兄弟となる。つねに、私は、彼らをたたえるべき理由を探すべく努めよう。けっして、彼らの悪口をかき集めるようなことはするまい。

他人を非難したくなったら、私は自分の舌を噛もう。その反対に、人を褒めなくなったら、私は屋根の上から大声で叫ぼう。

鳥や、風や、海や、そして、大自然のすべてが、彼らの創造主を褒めたたえる音楽を奏でているではないか。そして、人びとも同じく、創造主が創りたもうたものである。その創造主の同じ子らにむかって、私も音楽を奏でることができないはずがない。

これ以後、私は、この秘密をけっして忘れることはない。そして、この秘密が私を変えるのだ。



今日この日を、私は、心からの愛をもって迎える。

それには、どのように振るまえばよいのか？

私は、人びとの行為をすべて愛する。人の行為には、たとえ表面からは見えなくても、すべての人に、褒めたたえられるべき性質のものが秘められている。

私は、愛の力をもって、彼らが心のまわりにはりめぐらした不信と憎しみの壁を崩し去ろう。そして、その場所へ、私は丈夫な橋をかけよう。そうすれば、私の愛は、そこを渡って、彼らの魂の中へ入っていくにちがいない。

私は野心家を愛する。なぜなら、彼らは私を勇気づけてくれるからである。私は失敗者を愛する。なぜなら、彼らは私に教訓を与えてくれるからである。私は王様を愛する。なぜなら、彼も等しく同じ人間だからである。私はおとなしい人を愛する。なぜなら、彼らは神のように謙虚だからである。私は富める者も愛する。なぜなら、彼らは孤独であるから。私は貧しい人も愛する。なぜなら、彼らは、この世の中にいちばん多くいるからである。私は若者を愛する。なぜなら、彼らは若々しい信念を抱いているからである。私は老人を愛する。なぜなら、彼らは歲月のもたらしてくれた知恵をもっているからである。私は美しい女を愛



する。なぜなら、彼女らの眼には、悲しみがたたえられているからである。私は醜い人を愛する。なぜなら、彼らの瞳に宿る平和と静けさのゆえに。

今日この日を、私は、心からの愛をもって迎える。

しかし、私は、人びとの行ないに対して、どのように対応すればよいのであろうか。

その答えは、ただの一語をもって答えられる。「愛をもって」この一語である。愛は人の心を開くための武器である。同時に、他人からの憎しみの矢や、怒りの槍をはね返す楯でもある。災難や失意が激しくこの楯を乱打しても、やがては、春雨のように力を失ってしまう。

この楯は市場では私を守ってくれ、一人いるときは、私の心の支えになってくれる。失意のときは泰然、得意のときは冷然とさせ、心の乱れを鎮めてくれる。

楯は日を追うごとに強力になるが、やがては、その楯さえ、私は必要としなくなる。私は、その楯をかたわらへ放棄し、あらゆる武器を持たないまま、世間の人びとの中へ入っていくことができるようになる。そのときこそ、私の名前は、ピラミッドより高くたたえられることだろう。



今日この日を、私は、心からの愛をもって迎える。

しかし、私は、はじめて出会う人びとに対し、どのように接すればよいのであろうか？

方法はただ一つである。無言のうちに、心の中で、私は彼に近寄り、そして、「私は、あなたを愛している」と呼びかける。この言葉は、沈黙のうちに語られるが、しかし、それは、私の眼の中で輝き、私の額のしわをぬぐい去り、私の唇に微笑みをもたらし、私の声の中にこだまする。そして、このとき、はじめて彼の心が開かれるのである。

心がすでに、私の愛で開かれているのに、私の商品を拒みえる者がいるだろうか？

今日この日を、私は、心からの愛をもって迎える。

私は、何にもまして、自分自身を愛する。

そして、つねに私自身を知りつくすべく努めよう。私の肉体の一部と化した、精神、魂、心のすべてを知りつくすのだ。

私は、自分の肉体の要求に、そのまま溺れることなく、清潔さと適正さをもって、その要求にやさしく応えよう。私は、私の精神が、邪悪なるものや絶望的なるものに引きつけられ



ることをけつして許さず、むしろ、それらを、長い間に培った知識と叡知をもつて、高い境地にまで昇華させよう。

私は、一人よがりな自己満足に陥ることなく、瞑想と祈りによって、自らの魂を高めていこう。

私は、自分の心が狭く、冷酷になるのを許さない。人びとと、愛を分かちあい、寛容の心を成長させ、世界が暖かい友情で包まれるのが、私の望みである。

今日この日を、私は、心からの愛をもつて迎える。

今より、私は全人類を愛する。今この瞬間より、すべての憎しみは、私の血管から除かれ、なぜなら、もう私には、愛する時間はあっても、憎む時間はないからである。今この瞬間より、私は男の中の男になるべく、その第一歩を踏みだす。私は、愛をもつて、売上げを百倍にも増やし、偉大な商人になつてゆくのである。

たとえば、私には何の長所がないとしても、案ずるには及ばない。愛さえあれば、成功への道は必ず開けるのである。愛がなければ、あらゆる知識や技術をもつていようと、きつと失



敗することだろう。

今日この日を、私は、心からの愛をもって迎<sup>むか</sup>える。  
そして、私は成功する。